



オリオン座流星群

流星は世界中で毎日たくさん流れていて、流星の燃えかすは地球全体で小型トラック1台分も降ってきているそうです。流星というのは、太陽系内のチリや小石が地球の引力で引き寄せられ、大気との摩擦により燃えたものです。普通に見られる流星は**散在流星**といいますが、出現時期が毎年同じで特定の場所を中心に見られる流星を**流星群**といいます。

三大流星群と呼ばれる1月のりゅう座群、8月のペルセウス座群、12月のふたご座群がありますが、いずれも毎年安定した活動を見せます。

オリオン座流星群は三大流星群に比べればすこし見劣りしますが、毎年ほぼ安定した活動が見られます。毎年10月上旬から下旬にかけて、オリオン座の北部を中心に流れる流星群で、21日前後がピークになります。この流星群は5月のみずがめ座流星群と共にハレー彗星を親に持つ兄弟と言うことになります。2006年と2007年は活発な出現が見られ、今年も期待されましたが、平年なみだったようです。ただ今年はオリオン座の左上に下弦の月があり暗い流星が見えなかったため少なかったのかも知れません。

綺羅星・星座図鑑

鳥の星座（上）

鳥類の星座は 8 星座あります。中でも白鳥座や鷺座は有名ですね。鳥の星座は南半球に多く、その多くはマゼランが船で世界一周をした大航海以後につくられました。

※白鳥、鷺、鳥、鳩、鶴、孔雀、風鳥、鳳凰、（雄鳥、鶇、梟）

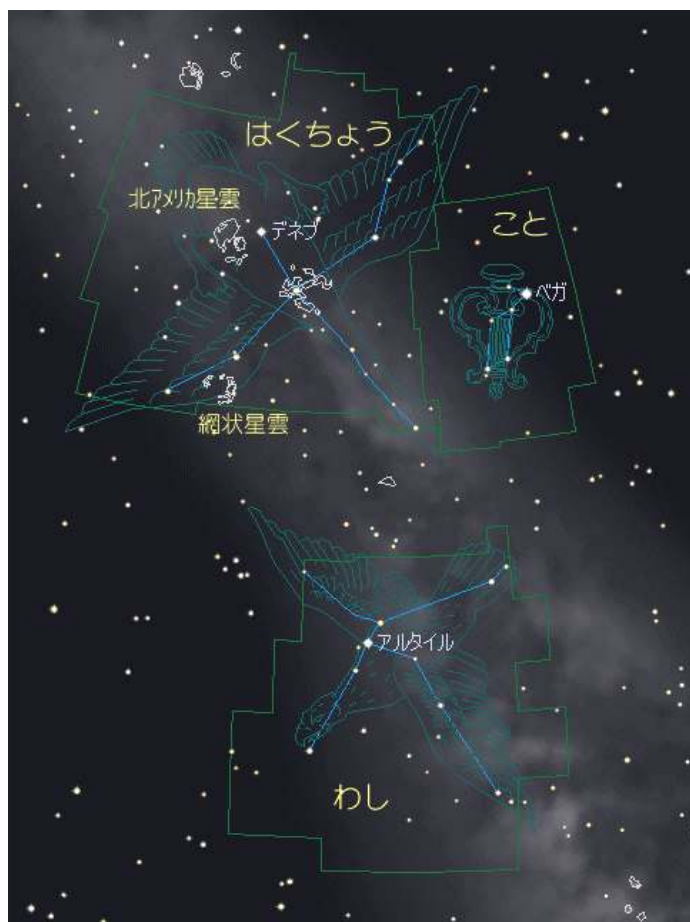
◎白鳥（はくちょう）座と鷺（わし）座

共に夏の星座で、小学校で習う『夏の大三角』をつくる星座の二つです。白鳥座は大きな十字型の星座で別名を『北十字』といい、ちょうど天の川の上を南に向かって飛ぶ姿をしています。

白鳥座は、大神ゼウスが白鳥に化けた姿で、優雅な白鳥とは全く別物です。浮気者の大神ゼウスがスパルタの王妃レダに一目惚れしました。ゼウスはレダに会いたくて白鳥に姿を変えみごとに野望を果たしたのです。

白鳥の尾にある 1 等星はデネブといいますが、1 等星の中では 2 番目に暗い 1.3 等星で、天の川の中にあるためそれ程目立ちませんが、これは距離が 1500 光年も離れているためで、実際の明るさは太陽の 7 万倍も明るく輝いている星なのです。白鳥の顔の部分にアルビレオという 3 等星があります。あまり目立たない星ですが、望遠鏡で見るとオレンジ色の 3 等星と青色の 5 等星が並んでいて、色の対比の美しい二重星です。デネブの近くに北アメリカ星雲という星雲があり、写真で見ると北アメリカ大陸にそっくりな形をしています。また、東側の羽には網状星雲という 7 万年前に超新星爆発した星の残骸があります。いずれも大きすぎて肉眼で確認するのは難しいです。

鷺座は、ゼウスの遣いの大鷺で、人間界の美男子ガニメデをさらった鷺の姿と言うことです。ゼウスは最高位の神でありながら、浮気をしたり誘拐したりとやりたい放題の悪い神なのではないでしょうか。鷺座は白鳥座の南に位置し、1 等星アルタイルは七夕の『ひこ星』としておなじみです。1 等星としては標準的な明るさですが、距離は 17 光年と近いので、形が直接確認されている星です。それによるとわずか 6 時間ほどの高速で自転



(太陽は 25 日) しているため、遠心力により赤道方向がふくらんだ楕円形をしています。鷲座には目立つ星雲や星団が無く物足りない感じがしますが、天の川に接しているため双眼鏡でながめると、星の数は多く天の川の濃淡がよく見えます。

◎烏（からす）座

烏というとゴミを散らかす街の嫌われ者ですが、星座になったのも不名誉な理由からです。この烏は音楽の神アポロンの召使いで、もともとは銀色の羽を持ち人の言葉を話せる賢い鳥でした。しかしずる賢く嘘つきという面も持ち合わせていました。ある時、出張中のアポロンはこの烏に、留守を守っている妻の様子を知らせるように言いつけました。様子を見て帰る途中道草をして遅くなってしまったので、そのいいわけに『奥さんが浮気をしている』と口から出任せを言ったのです。驚いたアポロンは急いで家に戻り、浮気相手と勘違いして妻を弓で射殺してしまったのです。嘆き悲しんだアポロンは嘘つき鳥から声を奪い、真っ黒な姿に変えて天に上げさらし者にしたのです。

烏座は乙女座の 1 等星スピカの右下にあり、4 個の 3 等星からなるゆがんだ四辺形はよく目立ちます。特に目を引く天体はありませんが、デルタ星は 3 等星と 8 等星からなる二重星です。



◎鳩（はと）座



鳩座はオリオン座の南にあり、北海道では地平線上ギリギリに見えます。この鳩は『ノアの箱船』から水の引き具合を調べるために放された鳩で、ノアはオリブの小枝をくわえて戻ってきたのを見て水が引いたことを確信したと言います。星座絵でもオリブの枝をくわえた姿で描かれています。

星座として見ると、あまり目立つ星はなく特に北の地方では地平線に低いため、大気汚れにより全体の姿を見るのが難しいです。本州中部より南では高くなり見やすいでしょう。鳩座の南に全天でシリウスに次いで明るい、竜骨座のカノープスがあります。

◎鶴（つる）座、鳳凰（ほうおう）座、巨嘴鳥（きょしちょう）座

この 3 星座は、1603 年にバイエルがつくった星座です。空を飛ぶ鶴の姿を、古代エジプトでは天体観測のシンボルとしていたそうです。

鶴座は秋の星座の一つで南の魚座のさらに南にあります。その姿は湿地にたたずむ 1

羽の鶴の姿です。鶴座の真ん中あたりに 2 等星が二つあり、鶴座を探す目印になるのですが、全体が見えるのは本州中部から南の地方で、北海道からは首から上の部分だけしか見えないため、全く鶴の姿には見えません。草原の中から首だけ出している姿になるでしょう。

このように南に低いため望遠鏡で楽しめる天体も少なく優雅な姿とは裏腹に、ちょっと物足りない感じがする星座です。

鶴座の東に接する鳳凰座は、日本では不死鳥と呼ばれている架空の鳥です。500 年の寿命がくると自ら炎の中に飛び込み、灰の中から再び蘇るという伝説の鳥で、『火の鳥』（手塚治虫作）のモデルになりました。

星座自体は 2 等星と 3 等星がありますが、見慣れていないと結びにくいです。鳳凰座の南にエリダヌス座の 1 等星アケルナーがあり良い目印となるでしょう。個々の天体では特に注目できるものもなくさみしいです。



巨嘴鳥座はさらに南にあり、沖縄でも北側半分が見えるだけです。巨嘴鳥は南米の熱帯地方に棲むオオハシという嘴の大きな鳥です。巨大な嘴に似合わず性格はおとなしく、木の実などを好んで食べます。日本でも動物園などで見られるところもあるでしょう。

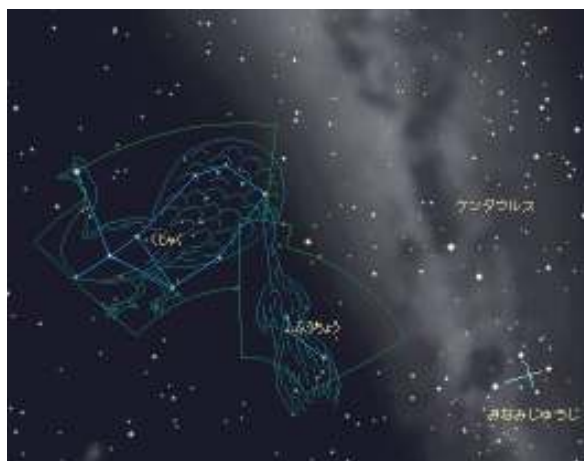
巨嘴鳥座は日本国内からはほとんど見えないため、注目されることもないですが、南端に小さな雲の切れ端のように見える小マゼラン銀河があります。距離は 21 万光年と、大マゼラン銀河に次いで近い銀河です。残念ながら日本から見ることは出来ませんが、フィリピンから南の地方で見ることが出来ます。

◎孔雀（くじゃく）座、風鳥（ふうちょう）座

この二つも 1603 年にバイエルがつくった星座です。

孔雀座は、飾り羽根を扇のように広げるおなじみの鳥です。この星座も南に低いので沖縄地方でも全体は見え、フィリピン中部でようやく見ることが出来ます。

孔雀の優雅な姿を想像しながら見ると少々ガッカリします。アルファ星は 2 等星で目立ちますが、外は 4 等星以下の目立たない星ば



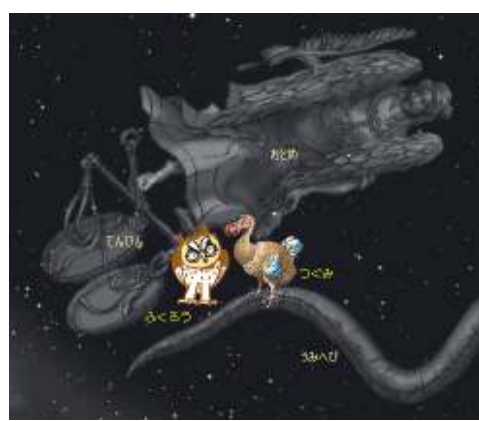
かりです。それでも 4 等星、5 等星の星をつないでみればそれらしい姿が見えてくると言います。

風鳥座はさらに南に低いので日本からは全く見えず、フィリピン南部から南の地方で見られます。『風鳥』とは奇妙な名前ですが、ニューギニア地方に生息し、美しい飾り羽をもつ鳥で、当時のヨーロッパではこの飾り羽が人気でした。現地の人はこの鳥を輸出する際、なぜか足を切り落としていたということです。ヨーロッパ人は足がないことを不思議がり『きつとこの鳥は一生風のように飛び続け地上に降りることはないのだろう』と考えたのです。

星座は天の南極に近いためオーストラリアや南米、アフリカ方面では 1 年中沈むことはありません。ただ、4 等星以下の星で構成されるため、初めて見るとどこにあるのかわからないでしょう。

◎消えた鳥の星座

1930 年までは、新しい星座がつくられては消えていくということがよくありました。鳥の星座でこれまでつくれ消えた星座は3つあります。



雄鳥（おんどり）座は、17 世紀にセラリウスがつくりました。位置はアルゴ座（現在は艦、帆、竜骨、羅針盤の四つに分割）のとなりにありましたが、現在は使われていません。

1776 年、ル・モニエにより海蛇座のしっぽの上に鶴（つぐみ）座がつくられました。ツグミというと日本でも見られるスズメとハトの中間くらいの鳥を思い出されますが、星座になった鳥は『ドードー』という七面鳥のようにずんぐりした鳥で、インド洋のモーリシャス島などに生息し、飛ぶことは出来ませんでした。脚力が強く岩場を素早く走ることが出来ました。人を見ても逃げないため食料や見せ物として大量に捕獲され、1681 年に絶滅しました。発見からわずか 180 年ほど後のことです。

梟（ふくろう）座は鶴座と同じ場所につくられましたが、時期も作者も不明というミステリーな星座です。

綺 羅 星 列 伝

今回は一遍ご覧ください。皆さんの星物語よろしくお願いします。お寄せいただいた物語はしょさんべつ天文台にあります。いつでも閲覧できますのでお立ち寄りの際はご一読ください。

星の名前 : HOMIKO

名も無き星にその名を付けた。

地上の名は“穂美子”。

今まで生きてきて同じ名前の人に私は出会ったことが無い。

名付け親は父と祖父。まったく、風変わりなその名前のお陰で子供の頃は随分と苦労した。まず、一度で呼ばれた例がない。必ず(!?)が入る。こんな具合に→“ほ!?み!?こ”さん？

『だからお父さん!!』

幼稚園の頃、入園式で読み間違われて恥ずかしい思いしたんだゾ(泣)

まあ～すぐお母さんが訂正に行ったけどね(^^)v

あと『おじいちゃん!!』

何でも初恋の人の名前を参考に拝借したとかしないとか。

この話は大人になってから聞かされたけど、もっと良い由来は無かったの。

あっ！有りました。えっ～と何々

【祖母がイネ(稲)の名であって、由来は古き神国に遡って色々と神話に出てくる瑞穂の国の芽出度い名を取って美しい人生を送ることを願いつつこの名を付ける。父・母は勿論、祖父及び肉親の同意があって命名に及んだものである】…。

そして永遠に私たちが家族を照らしてくれるから…。

幼い頃から空を見上げる事が好きだった。

父と並んで夜空を見上げていた頃が懐かしい。

今ではその父も星になった。

あれは私がまだ小学校4年生の頃、癌だった。自営をしていた関係で精神的なストレスは随分だっただろう。

お酒もタバコも全くせず家族を愛してくれた父だった。

病院に掛かった頃はすでに黄疸が出始め、手術をする頃になると転移がみられた。

それでも2度の大きな手術に耐え、一時帰宅が出来るまでに回復した。

それから半年後、眠るように父は逝った。愛する家族を残して…。

月日は流れ、祖父も星になった。

あの頃、私に“穂美子”と名付けて愛してくれた父と祖父。

その思いを受け継ぎ、今度は私が夜空に輝く星へ“HOMIKO”と名付けよう。

それは確かに二人が生きていた証となるから。

こちら情報室

○天文情報（12月～5月）

流星・彗星

- 12月14日を中心にふたご座流星群

今年は満月直後の明るい月があり、条件としては良くないですが、明るい流星も見られるので月明かりをさけて見ると良いでしょう。

- 12月22日を中心にこぐま座流星群

こぐま座に放射点を持つ流星群で一晩中見えます。今年は母天体のタートル彗星が1月に戻って来ているので、例年より多くみられる可能性があります。

- 1月4日未明にりゅう座流星群

しぶんぎ流星群とも呼ばれる流星群で、今回は月明かりが無く最良の条件で見られます。冬の明け方ということで寒さが身にしみる頃ですが、暖かい服装で見てください。

- 4月22日にこと座流星群

22日と23日の明け方に注目の流星群です。数はあまり多くないですが、流星群の少ない春には貴重な存在です。

◎ 彗星を見よう

- 今年は6～10等級の彗星はいくつも見られましたが、一般の人の対象になるものはありませんでした。突然現れて明るくなるものがあるかも知れませんが、天文ニュースに注目しましょう。

日食・月食・星食

- 12月29日の正午過ぎに月による水星の食が見られます。ただし太陽に近く、月齢1.7という細い月を日中の空で見つけ出すのは困難でしょう。
- 2月23日の早朝、月に隠れていた水星が月の暗い縁から出てくる様子が、東日本・北日本各地で見られます。
- 2月23日の日中、水星食を終えたばかりの月が今度は木星を隠す食が見られます。1日に二つ続けて惑星食が見られるのは珍しいことです。
- 1等星の食は残念ながら日本では見られません。
- 月によるすばらの食が7月27日深夜、10月17日夕方、11月14日明け方の3回見られます。

このうち7月27日は下弦すぎの月なので月も星も見やすいでしょう。

2月23日水星の出現



2月23日木星の潜入

惑星

水星：1月4日と4月26日は夕方の西空で、2月14日は明け方の東空で最大離隔となり見やすくなります。4月26日の水星は高度も高く見やすいです。

金星：1月15日に夕方の西空で最大離隔に、2月20日にもっとも明るくなる最大光度になります。3月25日には地球と太陽の間に入り（内合）見えなくなりますが、5月2日に明け方の東空で最大光度、6月6日に同じく最大離隔になります。

火星：2010年2月の接近まで休みです。

木星：1月24日に太陽と合になり見られません。地球に接近する衝は8月15日です。

土星：3月10日に衝を迎え8月上旬まで見られます。2009年の土星は地球から見ると真横になるため細く、8月6日と9月3日に環が見えなくなります。

冥王星：9月18日に地球に接近しますが、遠いので小さく丸く見えるだけです。大きな望遠鏡では衛星が2、3個見えます。

海王星：8月18日に地球に接近しますが、天王星より遠いのでふつうの星とあまり変わりません。大きな望遠鏡で衛星トリトンを見ることができま



[連絡事項]

住所・氏名が変更になりましたらご一報ください。星物語はいつでも募集しています。郵便、E-mail どちらでも受け付けますので、お気軽にどうぞ。

「My Stars 通信」の送付について、登録番号 8230 までの方は次号よりホームページ上でご覧ください。なお、インターネット利用環境のない方につきましては今後とも郵送することと考えておりますので、希望者にはご一報いただきたくお願いします。

[編集後記]

2008年10月末現在の登録者数は8228名です。

今年は色々言われていた中国のオリンピックも無事終わりました。ホッとしていたらアメリカの大手証券会社が破産し世界中で金融恐慌が始まるなど大変なことが起こりました。

自然災害はスマトラ島、中国、岩手・宮城内陸、パキスタンなど各地で大きな地震が多発し、台風やハリケーンによる大雨や洪水による甚大な被害があり、猛暑に見舞われたところも多かったようです。また北極や南極では氷の縮小、氷河の消失などここ数年来深刻な問題となっていることが今年も続き、それらが当たり前になって来ています。初山別はというと、雪も雨も少なめで猛暑の影響もなく、何となく例年より晴れた日が多かったような気がします。

来年は村制施行 100 周年、天文台設立 20 周年にあたり、イベントを考えています。詳しくは『MyStars 通信』29号とホームページでお知らせする予定です。

(K)

編集・発行 しょさんべつ天文台 〒078-4431 北海道苫前郡初山別村字豊岬 153-7

天文台ホームページ URL=<http://www.hokkai.or.jp/shosanbe/>

E-Mail 教育委員会 shkyoiku@saturn.plala.or.jp しょさんべつ天文台 shosanbe@hokkai.or.jp